

第2章 店舗形態別価格

この章では、構造編の店舗形態別価格調査の結果及び調査で得た情報を基に特別集計した結果を用いて、店舗形態による価格水準の違いに加え、価格の広がりや価格の動きなどを解説する。

店舗形態別価格調査は、スーパーや一般小売店などの店舗形態別の価格を把握するため、道府県庁所在市において、スーパー以外でも価格調査が可能な品目の中から9品目を選定の上、調査を実施している。

なお、東京都は、動向編調査において様々な店舗形態の価格が得られており、構造編では調査地域としていない。

構造編の調査価格に加え、動向編で調査している全ての都道府県庁所在市の店舗の価格も利用して集計することから、構造編の調査店舗は、比較対象とする店舗形態のうち、動向編ではあまり価格調査を行っていない形態の店舗の中から代表的な店舗を中心に構成している。動向編が、価格の代表性という観点から店舗形態に関わりなく販売数量等を基準として店舗を選定している一方、構造編の店舗は店舗形態の指定を優先しているという点で異なっている。

この章の構成は以下のとおりである。

第1節では、スーパーと一般小売店の比較について解説する。

第2節では、スーパーと量販専門店の比較について解説する。

第3節では、価格分布の状況について解説する。

第4節では、店舗形態別の価格の動きについて解説する。

1 スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米, コロケ及びビールはスーパーの価格が低い
- ◆ 豚肉は一般小売店の価格が低い
- ◆ 平成 27 年結果と比較すると, ビールで価格水準の差が拡大

スーパーと一般小売店の価格差を比較することを目的として調査している 4 品目（うるち米^(注1)、豚肉^(注2)、コロケ及びビール）の年平均価格^(注3)をみると、うるち米、コロケ及びビールは、スーパーの価格が低くなっている。一方、豚肉は一般小売店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を 100 として一般小売店の価格水準をみると、ビールで 119.3 と最も水準の差が大きくなっている。

平成 27 年結果と比較すると、ビールでは価格水準の差が拡大している。差が拡大した要因は、価格が低いスーパーの年平均価格が下落し、価格が高い一般小売店の年平均価格が上昇したことによる。

一方、うるち米、豚肉及びコロケでは価格水準の差が縮小している。差が縮小した要因は、うるち米及びコロケでは価格が低いスーパーの年平均価格の上昇率が、価格が高い一般小売店の年平均価格の上昇率よりも高かったことによる。また、豚肉は価格が低い一般小売店の年平均価格の上昇率が、価格が高いスーパーの年平均価格の上昇率よりも高かったことによる。

(表 2-1, 図 2-1)

(注 1) うるち米は、単一原料米（コシヒカリ以外）を調査している。

(注 2) 豚肉は、バラ（黒豚を除く）を調査している。

(注 3) 全都道府県庁所在市（全 47 市、東京都については東京都区部）の年平均価格（年平均価格の算出方法については「II 利用上の注意」を参照）

表 2-1 調査対象 4 品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

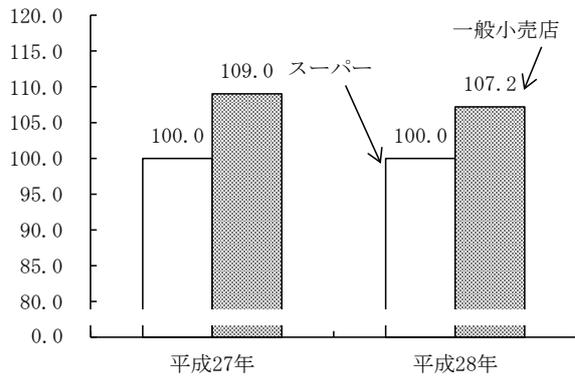
品目 (単位)	店舗形態	平成 28 年			平成 27 年			平成 27 年との比較 (28 年-27 年)	
		年平均 価格 (円)	価格水準 (注 4)	価格水準 の差 (注 5)	年平均 価格 (円)	価格水準 (注 4)	価格水準 の差 (注 5)	年平均価 格の変化 率 (%)	年平均価 格の変化 率 (%)
うるち米 (1 袋 (5kg))	スーパー	1,913	100.0	-7.2	1,822	100.0	-9.0	91	5.0
	一般小売店	2,051	107.2		1,986	109.0		65	3.3
豚肉 (100g)	スーパー	231	100.0	15.6	231	100.0	16.5	0	0.0
	一般小売店	195	84.4		193	83.5		2	1.0
コロケ (100g)	スーパー	100	100.0	-15.0	98	100.0	-16.3	2	2.0
	一般小売店	115	115.0		114	116.3		1	0.9
ビール (1 パック (350ml×6 缶))	スーパー	1,110	100.0	-19.3	1,119	100.0	-18.0	-9	-0.8
	一般小売店	1,324	119.3		1,320	118.0		4	0.3

(注 4) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を 100.0 とした際の値

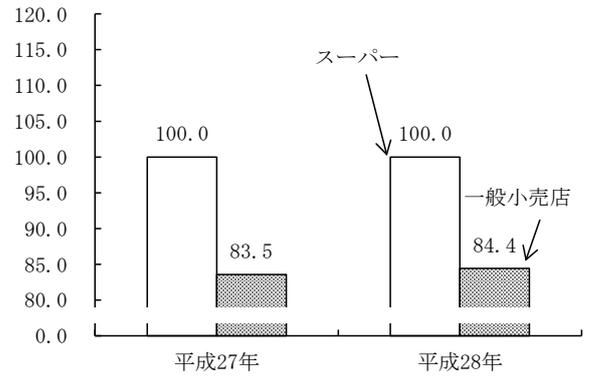
(注 5) 価格水準の差 = 「スーパー」の価格水準 - 「量販専門店」の価格水準

図 2 - 1 調査対象 4 品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格＝100）

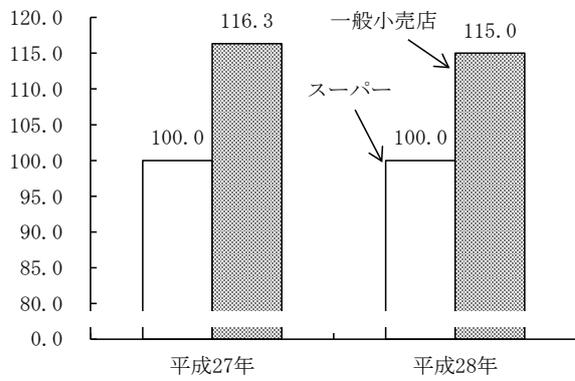
＜うるち米＞



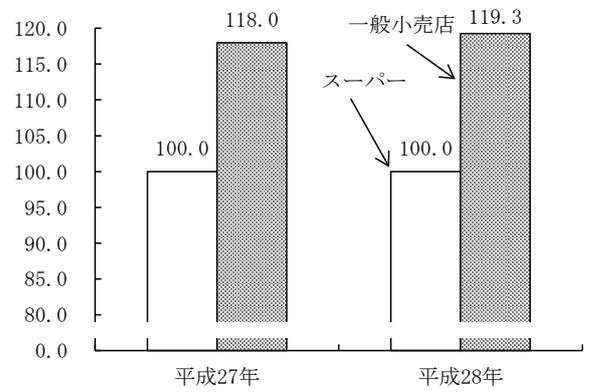
＜豚肉＞



＜コロッケ＞



＜ビール＞



2 スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 5つの調査品目全てで量販専門店の価格が低く、特にドリンク剤とティシュペーパーが低い
- ◆ 平成27年結果と比較すると、洗濯用洗剤、ドリンク剤及びシャンプーで価格水準の差が拡大

スーパーと量販専門店の価格差を比較することを目的として調査している5品目（ティシュペーパー、洗濯用洗剤、ドリンク剤、紙おむつ及びシャンプー）の年平均価格^(注1)をみると、全ての品目で量販専門店の価格が低くなっている。

また、スーパーの年平均価格を100として量販専門店の価格水準をみると、ドリンク剤が90.4と最も水準の差が大きく、次いで、ティシュペーパーが94.0となっている。一方、その他の品目は比較的水準の差が小さく、スーパーと量販専門店の価格の違いは僅かである。

平成27年結果と比較すると、洗濯用洗剤、ドリンク剤及びシャンプーは価格水準の差が拡大している。差が拡大した要因は、ドリンク剤では価格が高いスーパーの年平均価格が上昇し、価格が低い量販専門店の年平均価格が横ばいであったことによる。また、洗濯用洗剤及びシャンプーでは価格が低い量販専門店の年平均価格の下落率が、価格が高いスーパーの年平均価格の下落率よりも高かったことによる。

一方、ティシュペーパー及び紙おむつでは価格水準の差が縮小している。差が縮小した要因は、価格が高いスーパーの年平均価格の下落率が、価格が低い量販専門店の年平均価格の下落率よりも高かったことによる。

(表2-2, 図2-2)

(注1) 全都道府県庁所在市(全47市、東京都については東京都区部)の年平均価格(年平均価格の算出方法については「II 利用上の注意」を参照)

表2-2 調査対象5品目の店舗形態別年平均価格及び価格水準

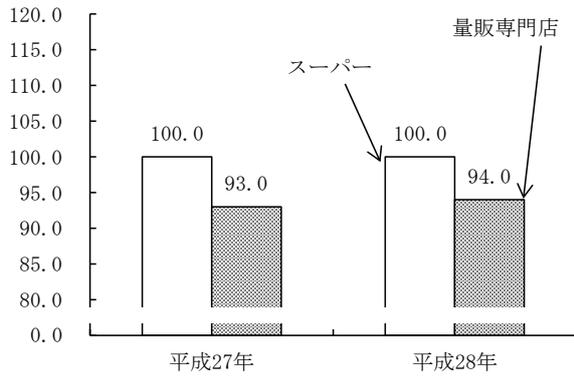
品目(単位)	店舗形態	平成28年			平成27年			平成27年との比較 (28年-27年)	
		年平均 価格(円)	価格水準 (注2)	価格水準 の差(注3)	年平均 価格(円)	価格水準 (注2)	価格水準 の差(注3)	年平均価 格の変化 (円)	年平均価 格の変化 率(%)
ティシュペーパー (1パック(320枚(160組)×5箱))	スーパー	266	100.0	6.0	272	100.0	7.0	-6	-2.2
	量販専門店	250	94.0		253	93.0		-3	-1.2
洗濯用洗剤(1kg(液体))	スーパー	301	100.0	1.7	303	100.0	1.3	-2	-0.7
	量販専門店	296	98.3		299	98.7		-3	-1.0
ドリンク剤(1箱(100ml×10本))	スーパー	1,098	100.0	9.6	1,087	100.0	8.6	11	1.0
	量販専門店	993	90.4		993	91.4		0	0.0
紙おむつ(大人用, 10枚)	スーパー	694	100.0	1.0	702	100.0	1.7	-8	-1.1
	量販専門店	687	99.0		690	98.3		-3	-0.4
シャンプー(1,000ml)	スーパー	1,401	100.0	1.3	1,436	100.0	0.8	-35	-2.4
	量販専門店	1,383	98.7		1,425	99.2		-42	-2.9

(注2) 価格水準は、各年のスーパーの年平均価格を100.0とした際の値

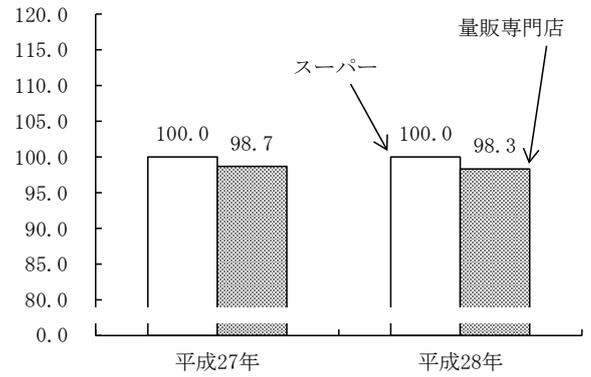
(注3) 価格水準の差は「スーパー」の価格水準-「量販専門店」の価格水準

図 2 - 2 調査対象 5 品目の店舗形態別価格水準（スーパーの年平均価格＝100）

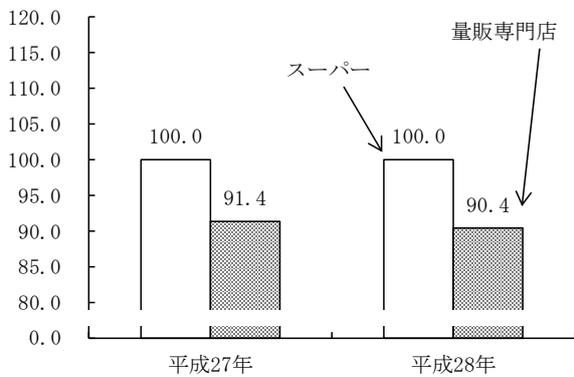
<ティッシュペーパー>



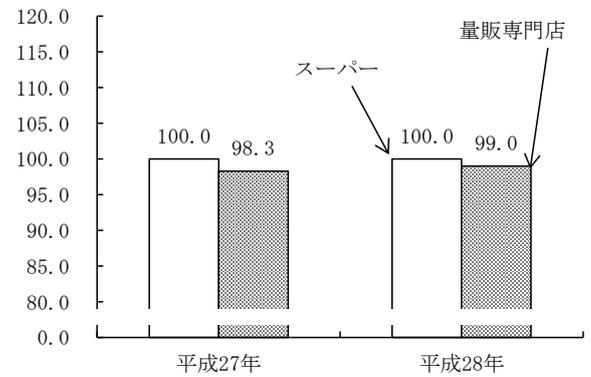
<洗濯用洗剤>



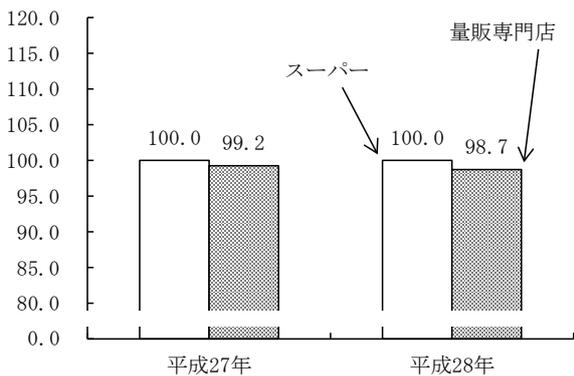
<ドリンク剤>



<紙おむつ>



<シャンプー>



3 価格分布の状況について

ここでは、平成 28 年に調査した店舗の価格情報を利用して価格分布（10%点、25%点、50%点、75%点及び 90%点）及びその他の統計量（各統計量に関する説明は後述の「(参考) 各統計量の説明」を参照）に関する特別集計の結果について紹介する。

なお、年の途中で銘柄改正を行った場合は、改正月以降の月に限定して集計している。

(1) スーパーと一般小売店の比較

- ◆ うるち米、コロッケ及びビールは、スーパーに比べ一般小売店の価格の分布の広がりが大きい
- ◆ 価格の散らばり度合いはスーパー、一般小売店共にコロッケが大きく、ビールが小さい

スーパーと一般小売店の比較を目的とした 4 品目について、それぞれ店舗形態別に 10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格及び四分位範囲（25%点と 75%点の差）を比較することにより、店舗形態別の価格分布の状況を見る。

うるち米は、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。また、四分位範囲により価格の広がりをみると、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

豚肉は、他の品目と異なり、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも低くなっている。なお、価格の広がりは、スーパーと一般小売店で同程度となっている。

コロッケは、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。また、四分位範囲により価格の広がりをみると、スーパーに比べ一般小売店が大きくなっている。

ビールは、いずれの%点においても一般小売店の価格はスーパーの価格よりも高くなっている。価格分布図で価格の広がりをみると、スーパーの価格が 1,100 円前後の価格帯に集中している一方、一般小売店の価格が比較的広範囲に分布しており、その状況は大きく異なっている。さらに、両店舗形態について、価格帯別の店舗割合を比較すると、スーパーでは全ての調査価格の半数以上（56.3%）が 1,050 円以上 1,100 円未満に集中し、右に裾をひく分布となっているのに対し、一般小売店では極端に集中している価格帯はなく、比較的なだらかな分布となっており、分布の状況が大きく異なっている。

(表 2-3, 図 2-3, 図 2-4)

次に、四分位分散係数により価格の散らばり度合いをみると、スーパー、一般小売店共に、コロッケの価格の散らばり度合いが最も大きく、ビールが最も小さくなっている。

(表 2-3, 図 2-5)

表 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	うるち米		豚肉		コロッケ		ビール	
	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店	スーパー	一般小売店
90%点 (円)	2,139	2,450	268	246	133	154	1,177	1,446
75%点 (円)	2,031	2,200	256	213	113	135	1,121	1,387
50%点 (円)	1,922	2,050	229	190	100	113	1,099	1,322
25%点 (円)	1,814	1,850	212	170	88	94	1,077	1,260
10%点 (円)	1,674	1,750	192	151	69	80	1,077	1,190
平均価格 (円)	1,924	2,059	230	194	101	115	1,111	1,323
四分位範囲 (円)	217	350	44	43	25	41	44	127
四分位分散係数	0.06	0.09	0.10	0.11	0.13	0.18	0.02	0.05
価格数	1,696	1,170	1,695	1,187	1,724	1,151	1,080	1,062

(※) 各統計量の算出方法は、後述の「(参考) 各統計量の説明」を参照

図 2-3 調査対象 4 品目の店舗形態別価格分布図

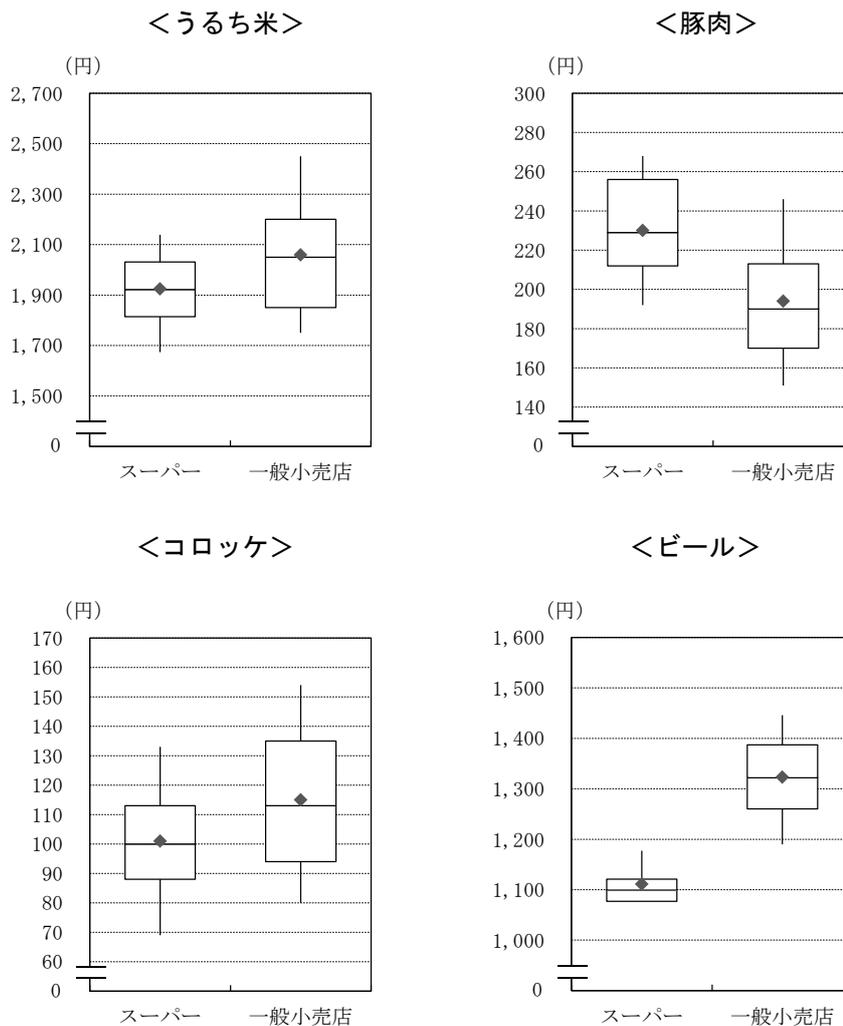
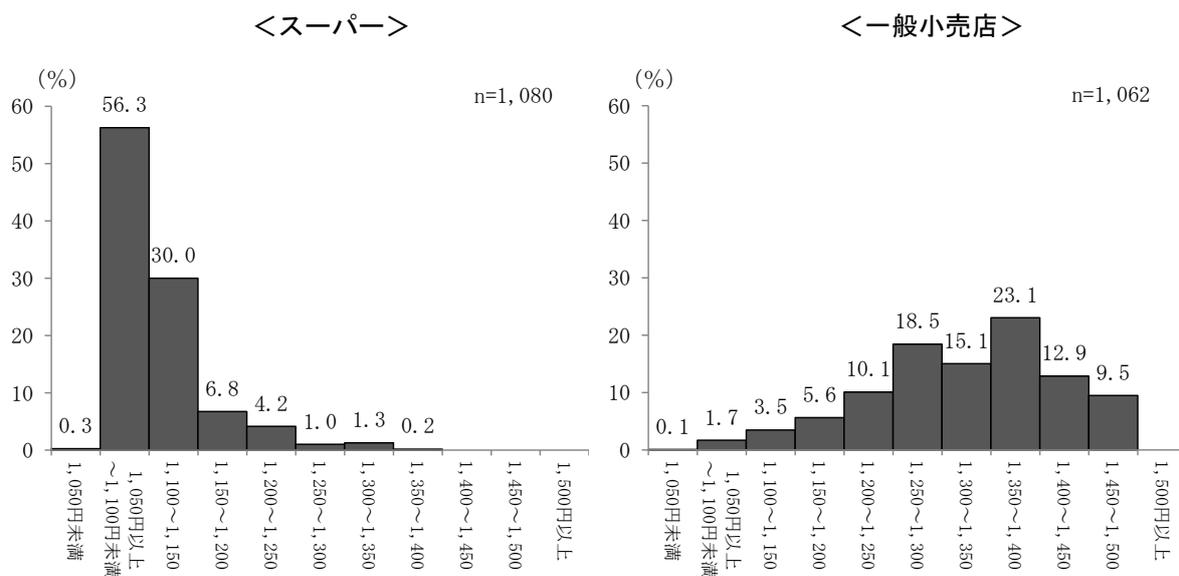
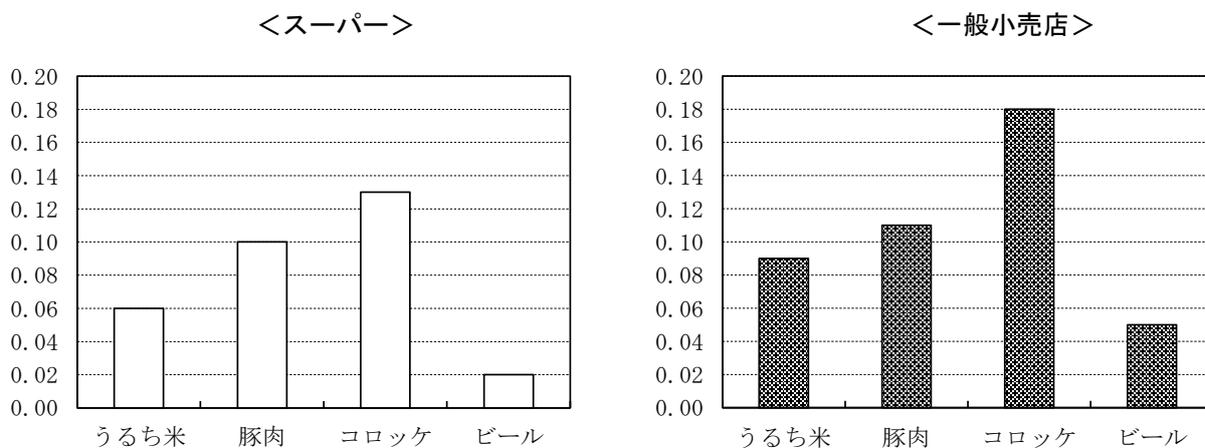


図2-4 ビールの店舗形態別価格帯別店舗割合



(※) 各図、右上に記載してある「n」は、店舗形態別価格調査で収集する1年間の価格数及び動向編の調査で収集する1年間の価格数のうち偶数月のみの価格数を合算した値

図2-5 調査対象4品目の店舗形態別価格の散らばり度合い（四分位分散係数）



(2) スーパーと量販専門店の比較

- ◆ 価格分布はスーパー，量販専門店で異なる傾向が見られる
- ◆ 価格の散らばり度合いはスーパー，量販専門店共に洗濯用洗剤が大きい

(1)と同様に，スーパーと量販専門店の比較を目的とした5品目について，店舗形態別の価格分布の状況を見る。

ティシュペーパーは，いずれの%点においても量販専門店の価格はスーパーの価格よりも低くなっている。また，四分位範囲により価格の広がりを見ると，スーパーに比べ量販専門店が小さくなっている。

洗濯用洗剤は，50%点及び90%点の価格が量販専門店とスーパーで一致しているなど，似た分布状況となっているが，四分位範囲により価格の広がりを見ると，量販専門店が大きくなっている。

ドリンク剤は，いずれの%点においてもスーパーに比べ量販専門店の価格が低くなっている。また，四分位範囲により価格の広がりを見るとスーパーに比べ量販専門店が小さくなっており，特に量販専門店は1,000円前後の価格帯に集中している。

紙おむつは，量販専門店の90%点の価格がスーパーに比べ低くなっているものの，それ以外は，似た分布状況となっている。

シャンプーは，量販専門店の50%点と90%点の価格がスーパーに比べ低くなっているものの，それ以外の%点では，スーパーと量販専門店の価格は一致している。また，四分位範囲により価格の広がりを見ても，スーパーと量販専門店で一致している。

(表2-4，図2-6)

次に，四分位分散係数により価格の散らばり度合いを見ると，スーパー，量販専門店共に洗濯用洗剤が最も大きくなっている。一方，スーパーは紙おむつ，量販専門店ではドリンク剤が最も小さくなっている。

(表2-4，図2-7)

表2-4 調査対象5品目の店舗形態別価格分布に関する統計量

	ティシュペーパー		洗濯用洗剤		ドリンク剤		紙おむつ		シャンプー	
	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店	スーパー	量販専門店
90%点 (円)	306	286	357	357	1,280	1,028	775	739	1,555	1,554
75%点 (円)	286	266	329	330	1,111	1,024	726	726	1,534	1,534
50%点 (円)	259	248	304	304	1,059	1,002	677	686	1,422	1,416
25%点 (円)	239	225	263	257	1,009	980	666	666	1,262	1,262
10%点 (円)	224	213	237	244	969	906	621	625	1,168	1,168
平均価格 (円)	264	247	299	298	1,097	992	693	691	1,403	1,387
四分位範囲 (円)	47	41	66	73	102	44	60	60	272	272
四分位分散係数	0.09	0.08	0.11	0.12	0.05	0.02	0.04	0.04	0.10	0.10
価格数	1,441	1,324	1,545	1,340	920	941	1,418	1,456	972	937

(※) 各統計量の算出方法は，後述の「(参考) 各統計量の説明」を参照

図 2-6 調査対象 5 品目の店舗形態別価格分布図

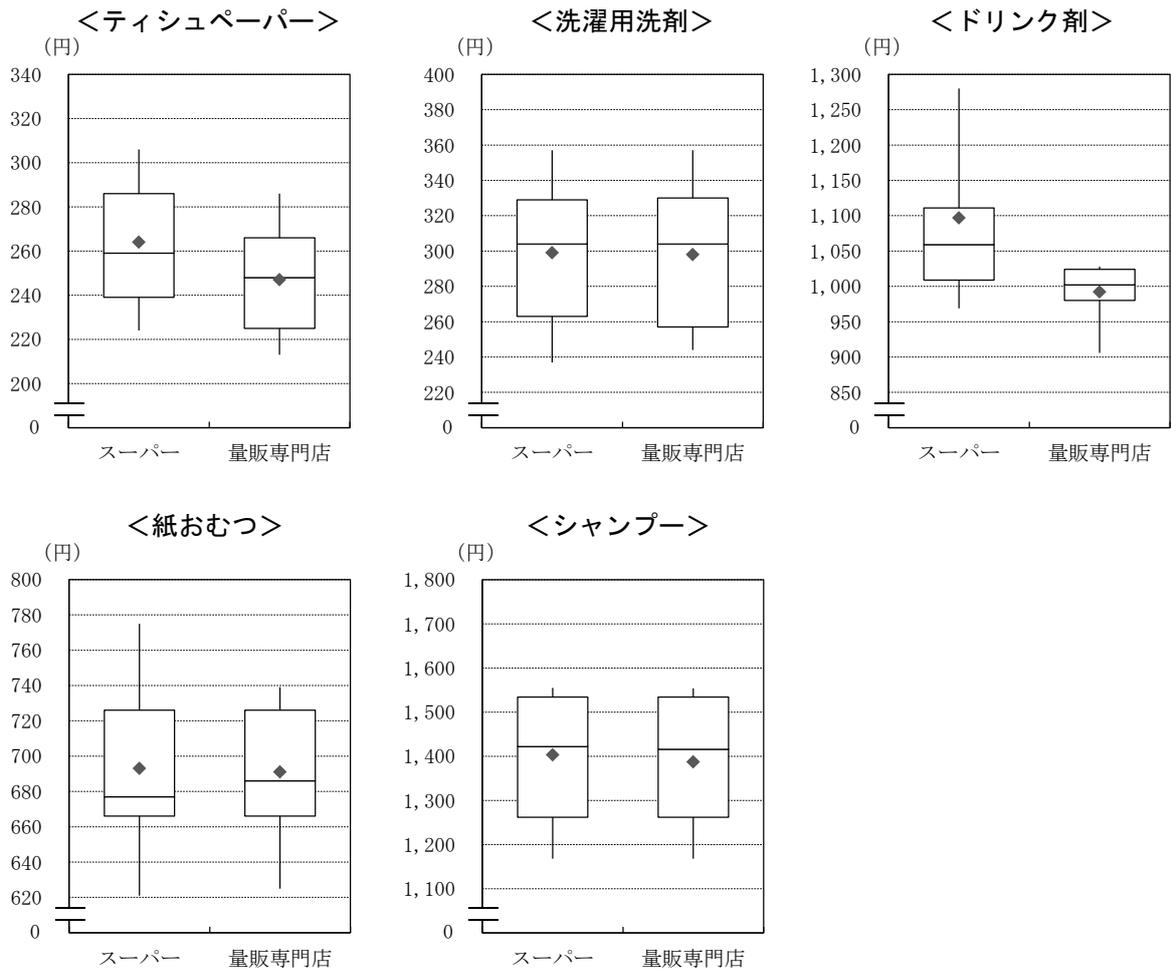
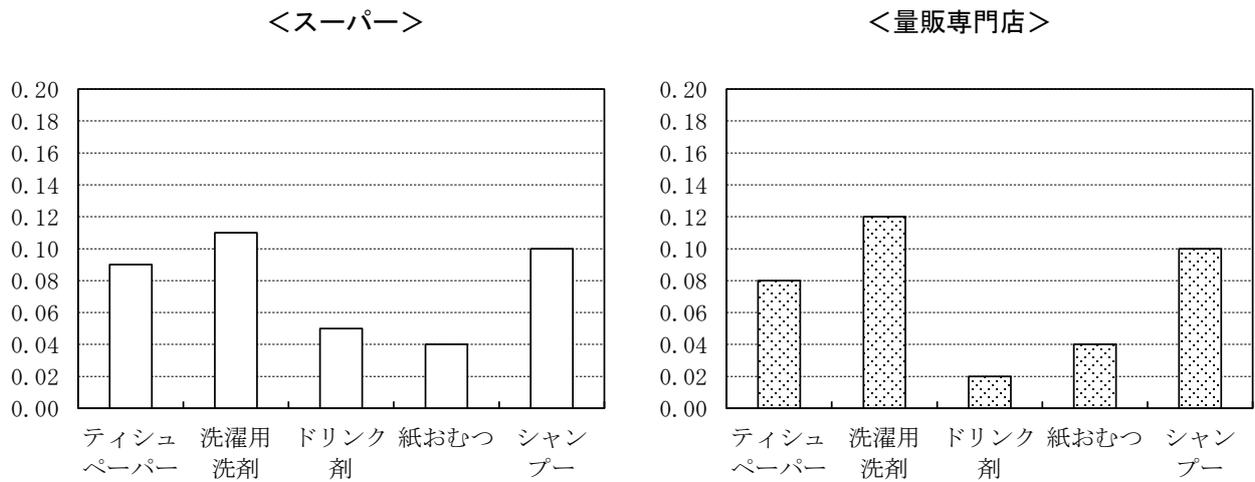


図 2-7 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の散らばり度合い (四分位分散係数)



(参考) 各統計量の説明

・ 平均価格

特別集計における平均価格は、平成 28 年の偶数月に調査した店舗の価格を単純平均したものである。そのため、店舗形態別価格調査の統計表に掲載されている年平均価格とは必ずしも一致しない。

・ %点

調査された店舗の価格を価格の低い方から並べ、低い方から数えて 25%、50%、75%に当たる点を 25%点、50%点、75%点として求めている。25%点は第 1 四分位点、50%点は第 2 四分位点、75%点は第 3 四分位点という。

なお、価格分布図を描画するため、10%点、90%点も求めている。

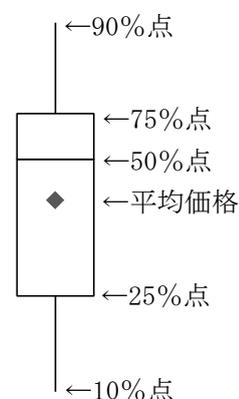
・ 価格分布図

価格分布図は右のとおり。この図により、平均価格や各%点の水準をみることができる。価格の広がり、75%点と 25%点の差（四分位範囲という。）をみることで、この差が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえる。

なお、これらの点のうち、二つ又はそれ以上の点が一致することもあり得る。

・ 四分位分散係数

四分位範囲の 2 分の 1 を求め、それを 50%点で除した値。これにより、価格の散らばり度合いを品目間で比較することが可能となる。



4 店舗形態別の価格の動き

ここでは、各調査品目について、店舗形態別価格調査が開始された平成 25 年 2 月のスーパーの平均価格（全都道府県庁所在市の平均価格）を 100 として、25 年から 28 年までの 4 年間の各調査月（偶数月（2 月，4 月，6 月，8 月，10 月及び 12 月））の平均価格を指数化し、店舗形態別の価格の動きを確認する。

(1) スーパーと一般小売店の比較

うるち米は、スーパー及び一般小売店共に、27 年後半頃から上昇傾向となっている。また、価格水準差^(注1)をみると、小幅な変動はあるものの、27 年 10 月以降は徐々に縮小する傾向にある。

豚肉は、スーパー及び一般小売店共に、27 年 6 月からほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、最大であった 27 年 12 月の-15.0^(注2)ポイントから、28 年 2 月は-14.0 ポイントと縮小し、その後、ほぼ横ばいで推移している。

コロッケは、スーパーでは、26 年 4 月の税率改正^(注3)以降の上昇が落ち着き、28 年 2 月以降はほぼ横ばいで推移している。一方、一般小売店では、27 年 2 月からほぼ横ばいで推移している。また、価格水準差をみると、26 年から 27 年始めに最大となった 19.8 ポイントから、28 年はやや縮小している。

ビールは、スーパーでは、税率改正以降、下落傾向となっていたが、28 年はほぼ横ばいとなっている。一方、一般小売店では、税率改正以降、ほぼ横ばいで推移している。その結果、拡大傾向で推移していた価格水準差は、28 年 4 月以降、高い水準（19 ポイント台）を保ったまま推移している。

(図 2 - 8)

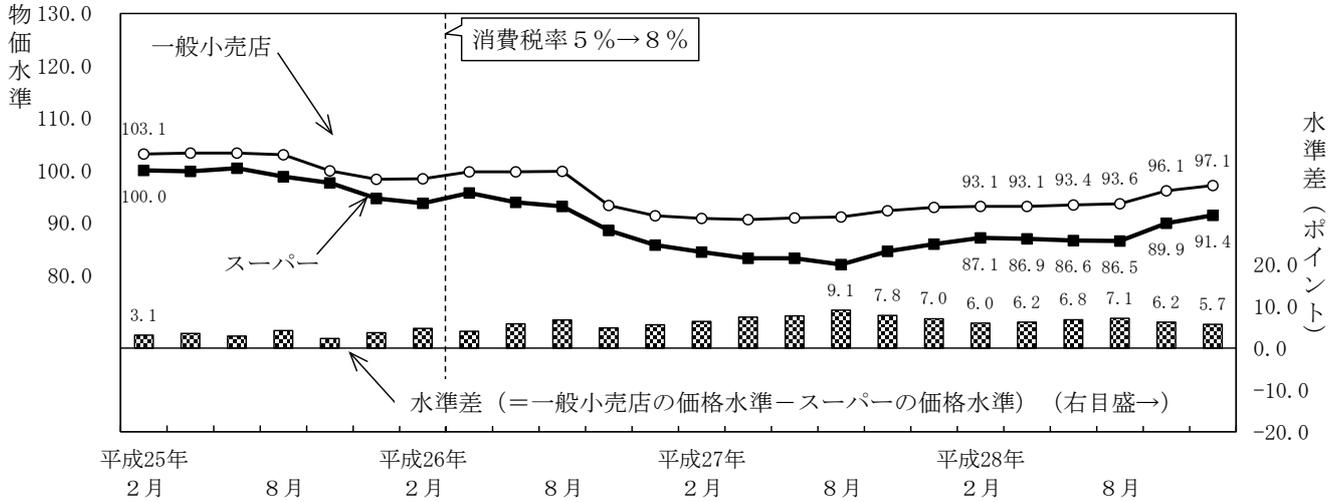
(注 1) 価格水準差 = 「一般小売店」の価格水準 - 「スーパー」の価格水準

(注 2) マイナスの場合は、絶対値での最大値とする。

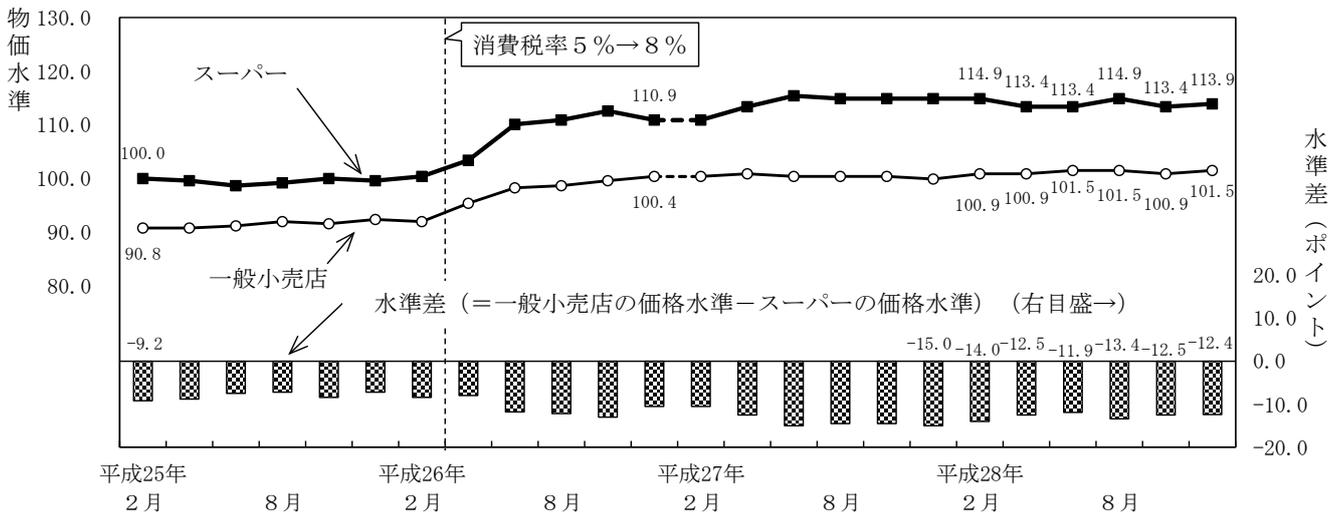
(注 3) 平成 26 年 4 月に消費税率が 5% から 8% に引き上げられた。

図2-8 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き
(平成25年2月のスーパーの平均価格=100)

<うるち米>



<豚肉>



(※) 対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在した場合は、前々月と同指数(持合)とし、破線により接続している。

<コロッケ>

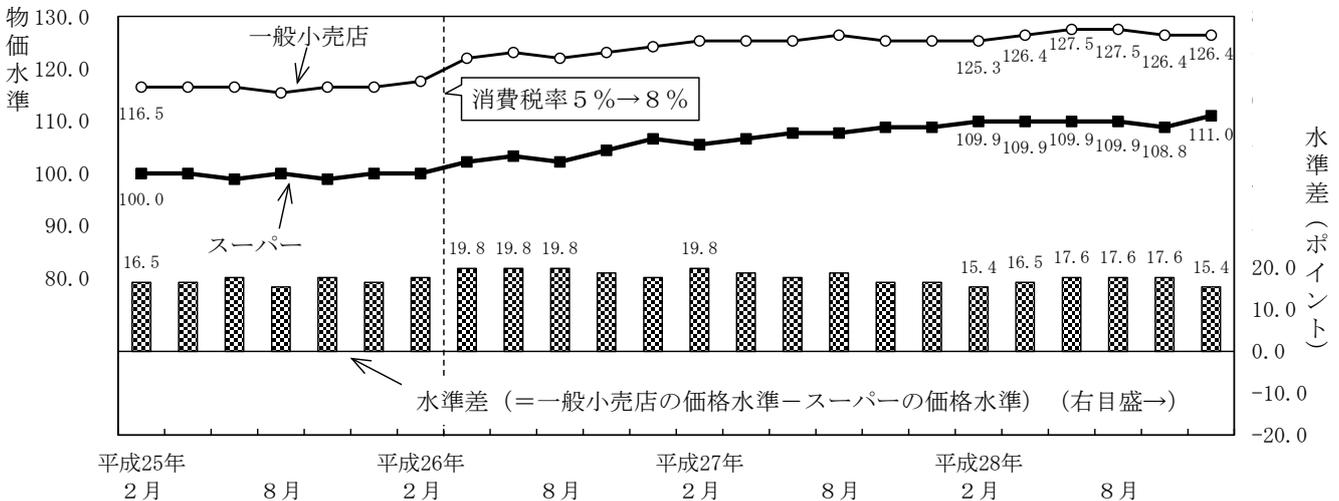
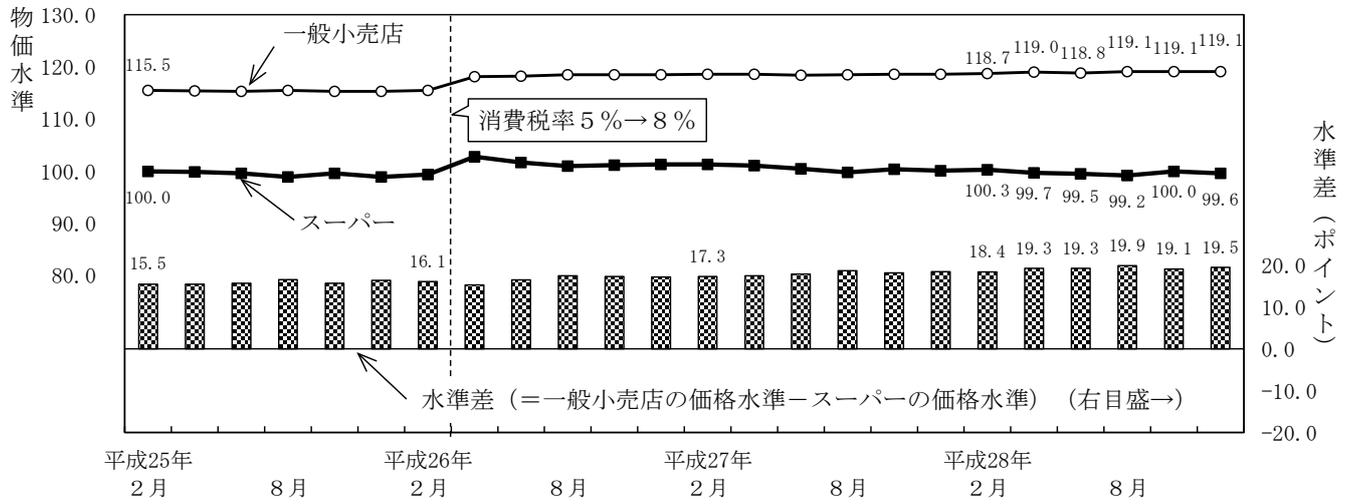


図2-8 調査対象4品目の店舗形態別価格の動き（続き）
 （平成25年2月のスーパーの平均価格=100）

<ビール>



(2) スーパーと量販専門店の比較

ティッシュペーパーは、スーパー及び量販専門店共に、26年4月の税率改正^(注3)以降、ほぼ横ばいで推移していたが、28年は緩やかな下落傾向となっている。また、価格水準差^(注1)をみると、最大であった27年10月及び12月の-8.6^(注2)ポイントから、28年2月は-6.5ポイントと縮小し、その後、ほぼ横ばいで推移している。

洗濯用洗剤は、28年の状況をみると、スーパー及び量販専門店共に、10月までほぼ横ばいで推移し、同年12月に大幅に下落した。また、価格水準差をみると、27年12月に-3.7ポイントとやや拡大がみられたものの、その他の期間では比較的低い水準で推移している。

ドリンク剤は、スーパーでは、税率改正以降、全体として緩やかな上昇傾向となっている。一方、量販専門店では税率改正時の価格の上昇を除いてはほぼ横ばいで推移している。その結果、27年まで-9.0ポイント前後で推移していた価格水準差は、平成28年2月に-10.0ポイントまで拡大し、その後、ほぼ横ばいで推移している。

紙おむつは、スーパー及び量販専門店共に、27年後半は下落傾向で推移していたが、28年は上昇傾向で推移している。また、価格水準差をみると、比較的低い水準で推移している。

シャンプーは、28年6月以降、スーパーと量販専門店と同様の動きがみられ、同年10月に大幅に上昇した後、同年12月に下落している。なお、価格水準差をみると、25年2月以降、拡大傾向で推移していたが、28年2月に-9.8ポイントと最大となり、同年4月は-7.1ポイントと縮小した。その後、同年10月までほぼ横ばいで推移し、12月に-4.6ポイントと大幅に縮小した。

(図2-9)

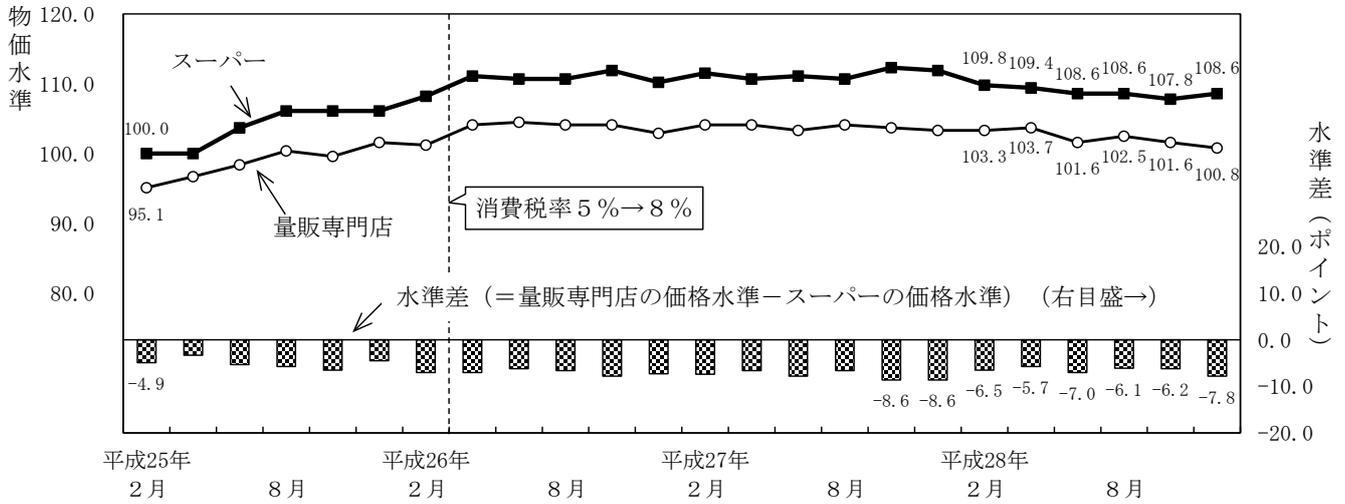
(注1) 価格水準差＝「量販専門店」の価格水準－「スーパー」の価格水準

(注2) マイナスの場合は、絶対値での最大値とする。

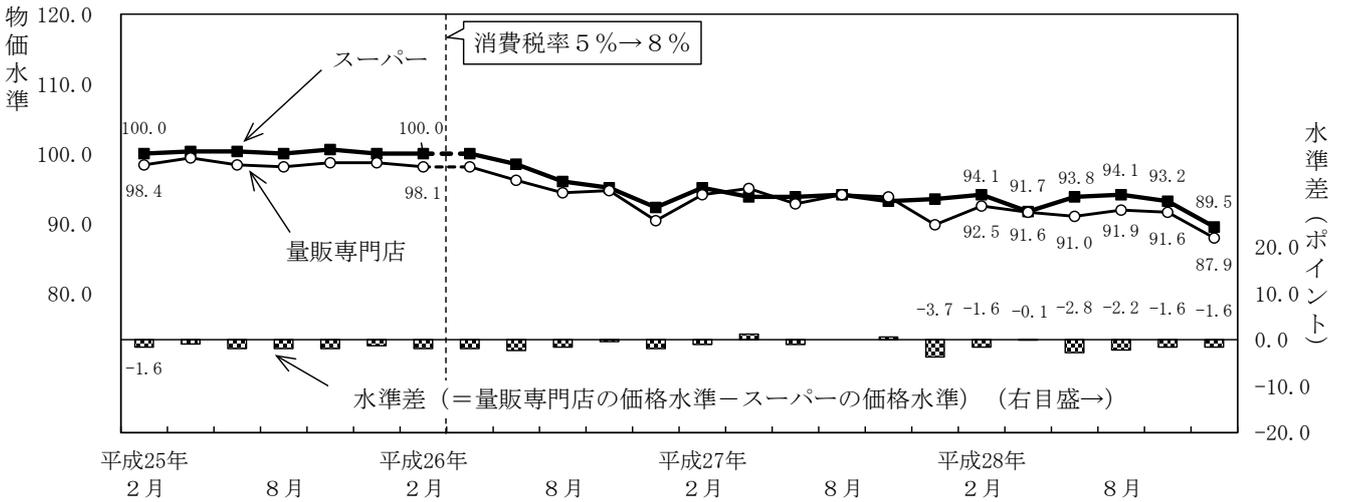
(注3) 平成26年4月に消費税率が5%から8%に引き上げられた。

図 2-9 調査対象 5 品目の店舗形態別価格の動き
(平成 25 年 2 月のスーパーの平均価格=100)

<ティシュペーパー>



<洗濯用洗剤>



(※) 対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在した場合は、前々月と同指数(持合)とし、破線により接続している。

<ドリンク剤>

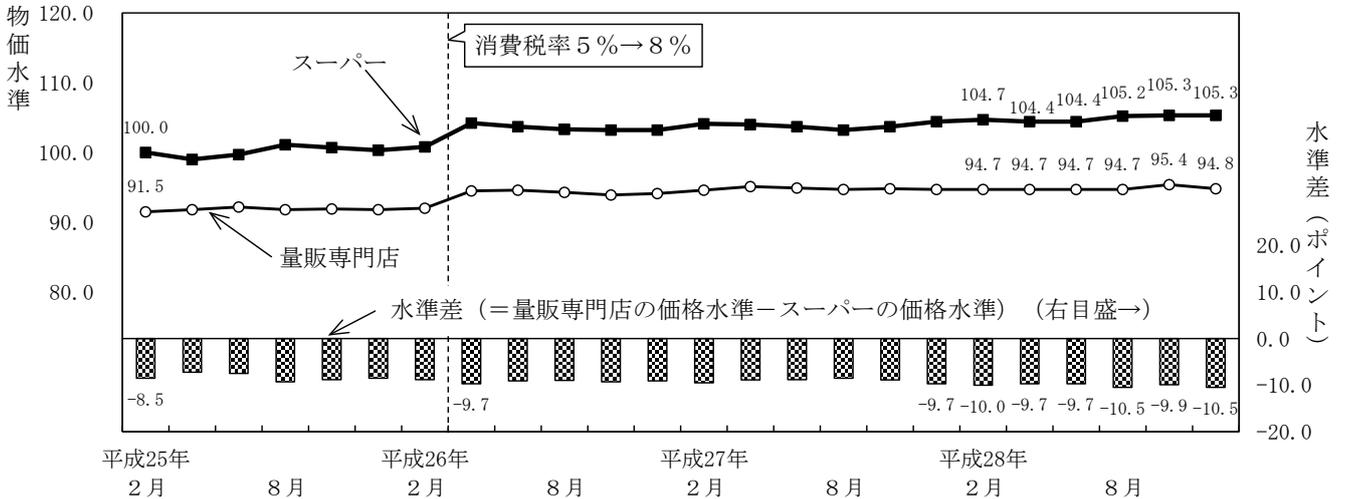
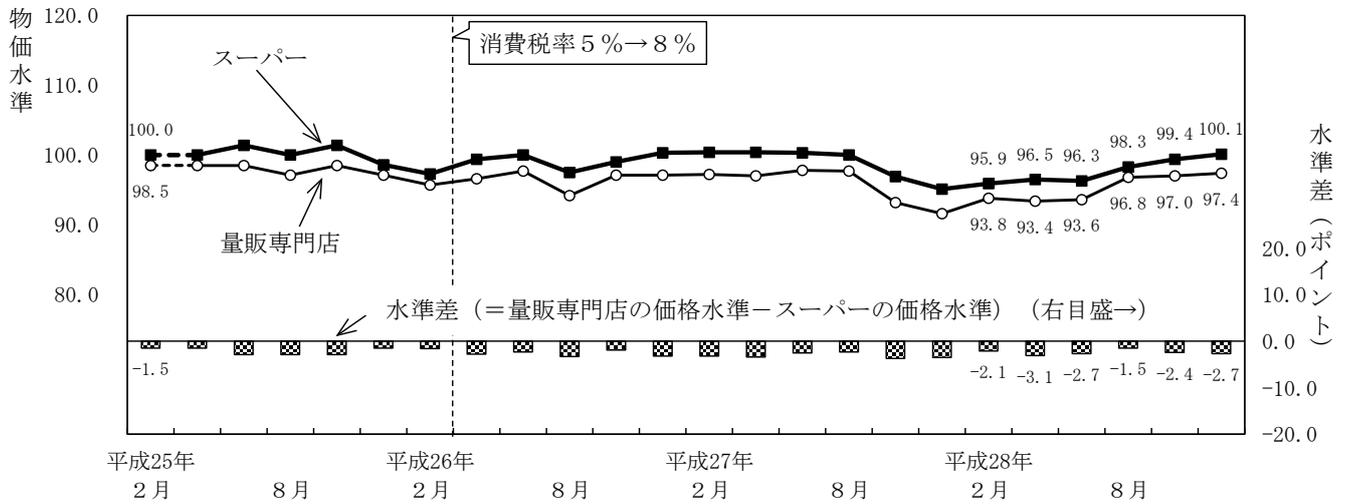


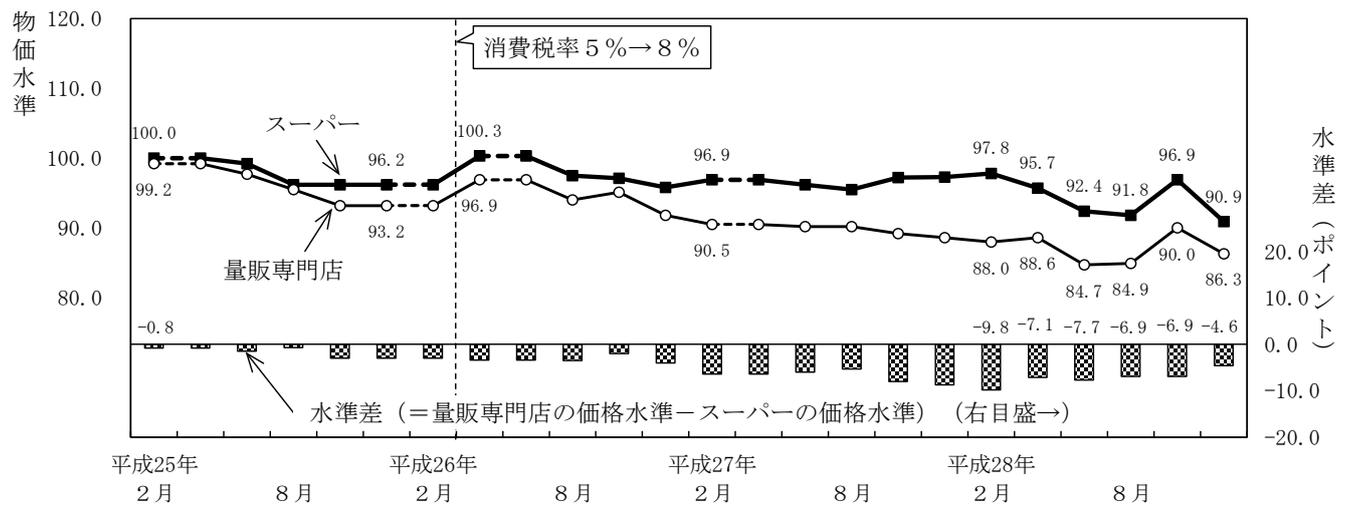
図2-9 調査対象5品目の店舗形態別価格の動き（続き）
（平成25年2月のスーパーの平均価格=100）

<紙おむつ>



(※) 対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在した場合は、前々月と同指数（持合）とし、破線により接続している。

<シャンプー>



(※) 対象期間に実施した銘柄改正のうち、旧銘柄と新銘柄で明確な品質差が存在した場合は、前々月と同指数（持合）とし、破線により接続している。